ハンディ水質計アクアブシリーズ

HANDY WATER METER “AQUAB”

AQUAB®
アクアブ®

低濃度･高濃度それぞれの
残留塩素の濃度管理に

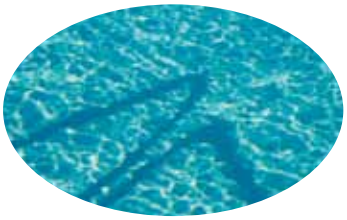
SIBATA

塩素管理の例

■AQ-201型

■飲料用水道水
遊離残留塩素･･･0.1mg/L以上
（結合残留塩素･･･0.4mg/L以上）
･上限値（目標値）:1mg/L
（水道法施行規則、快適水質項目など）

■浴槽水（公衆浴場）
通常0.2ないし0.4mg/L程度を保ち、かつ、最大1.0mg/Lを超えないよう努めること
（公衆浴場における衛生等管理要領）



■遊泳用プールおよび水泳用プール
0.4mg/L以上、また、1.0mg/L以下が望ましい
（遊泳用プールの衛生基準）

■AQ-202/202P型

■野菜･果物の殺菌や調理器具、容器等の消毒
次亜塩素酸ナトリウム溶液で、200mg/Lで5分間
又は100mg/Lで10分間殺菌
（大量調理施設管理衛生マニュアル、調理場における
洗浄･消毒マニュアル）

■農業分野での電解次亜塩素酸水の使用
pH6.5以下、有効塩素10～60mg/kg
（特定農薬（特定防除資材）として指定された
資材（天敵を除く。）の留意事項について）

■製造に使用する汚卵の殺菌
次亜塩素酸ナトリウム溶液　150ppm以上
（食鳥卵（鶏の液卵に限る。）の製造基準）

■電解次亜塩素酸水

- 電解水（次亜塩素酸水）は厚生労働省や農林水産省等によって、食品添加物や大量調理施設における殺菌水、特定農薬などとして規格が定められ、その使用が認められています。
- 食品添加物や殺菌水として使用する場合は、生成装置を事業者の責任で管理することが求められます。
- 機能水研究振興財団が発行する「次亜塩素酸水生成装置に関する指針（第2版追補）」にて、装置の保守管理に用いるモニター用品としてアクアブが紹介されています。

■電解水の種類

	pH	有効塩素（mg/kg）
弱酸性電解水	2.7～5.0	10～60
微酸性電解水	5.0～6.5	10～30（被電解液:塩酸水）
		50～80（被電解液:塩酸／NaCl混合水）
電解次亜水	7.5以上	30～200

※参考　一般財団法人 機能水研究振興財団

アクアブシリーズ

■主な機能

●メモリー機能
・最大99ポイントまで測定値が自動で保存
・メモリー確認モードにより測定値をその場で確認可能
●自動および手動による電源OFF
・自動電源OFFにより電源の切り忘れを防げるほか、手動による電源OFFも可能

■MODE選択画面

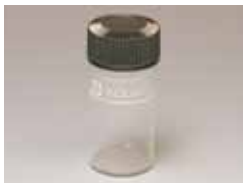
MODEキーを押すことで以下の項目を簡単に設定できます。

・測定モード
・メモリー確認モード
・電源OFF（手動）

■こんなところで使えます！

●AQ-201型（0.00 ～ 2.00mg/L　ガラス製試料セル）

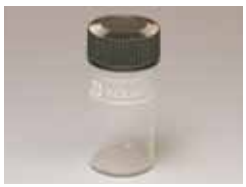
AQ-201型


試料セル　ガラス製

ビル･学校･工場･温泉施設などでの遊離残留塩素の測定に!

●AQ-202型（0 ～ 300mg/L　ガラス製試料セル）

AQ-202型


試料セル　ガラス製

殺菌や消毒などで使用される有効塩素もしくは高濃度残留塩素の測定に!

●AQ-202P型（0 ～ 300mg/L　PET製試料セル）

AQ-202P型

試料セル　PET製

食品工場などガラス持ち込みが制限される現場での有効塩素もしくは高濃度残留塩素の測定に!

操作は簡単! 5ステップ!!

■操作方法（例：AQ-202P型）

①検水を測定室へ　②ゼロ点測定　③試薬を投入　④再度測定室へ　⑤濃度測定

■仕様

型式	AQ-201	AQ-202	AQ-202P
品目コード	080560-201	080560-202	080560-2020
測定項目	残留塩素	総残留塩素	
測定範囲	0.00 ～ 2.00mg/L	0 ～ 300mg/L	
分解能	0.01mg/L	1mg/L	
再現性	±0.01mg/L	±1mg/L	
測定原理	DPD試薬による吸光光度法	ヨウ素試薬による吸光光度法	
測定方式	透過吸収測定：511±2nm		
光源／受光部	LED ／フォトダイオード		
検水(試料)条件	10 ～ 40℃、pH3 ～ 10	5 ～ 30℃、pH3 ～ 11	
試料セル	φ24キャップ付バイアルびん 材質　本体：ガラス　キャップ：PP		φ24キャップ付バイアルPET製 材質　本体：PET　キャップ：PP
測定時間	ゼロ点認識・濃度測定ともに約2秒		
データ記憶数	99点まで		
自動OFF機能	キー操作終了120秒後自動電源OFF（手動電源OFFも可能）		
電源	アルカリ乾電池　単4×4本		
付属品	キャリングケース、測定セル2本、乾電池　単4×4本、クイックマニュアル、試薬25包		
寸法・質量	70（W）×142（D）×63（H）mm・約250g		
価格￥	49,800	54,800	54,800

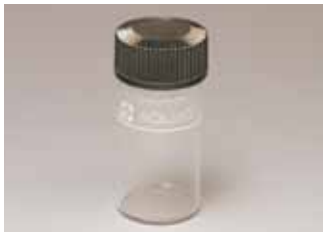
※測定範囲とは本装置がディスプレイに表示する範囲のことです。
※AQ-201/202型または旧モデルのAQ-101/102型はガラス試料セルで校正しています。PET試料セルを使用した場合、正しく測定できません。
※AQ-202P型または旧モデルのAQ-102P型はPET試料セルで校正しています。ガラス試料セルを使用した場合、正しく測定できません。
※ユーザー校正モードにより、ユーザー独自の校正（２点校正）が可能です。

■消耗品／スペアパーツ／オプション

品目コード	品名	価格￥
080540-501	粉体試薬　残留塩素DPD法（100回分）	1,800
080540-503	粉体試薬　残留塩素DPD法　徳用（500回分）	6,800
080560-1021A	粉体試薬　残留塩素高濃度（100回分）	3,000
080520-0058	ヨウ化カリウム　薬さじ付（20g）	3,500
080560-2001	試料セル　ガラス製　1本　AQ-201/202/101/102用	800
080560-200A	試料セル　PET製　2本　AQ-202P/102P用	1,000

粉体試薬残留塩素DPD法（100回分）

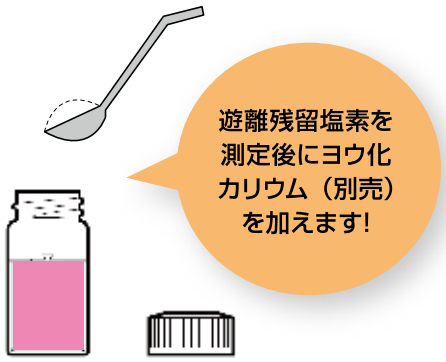
粉体試薬残留塩素高濃度（100回分）


試料セル　ガラス製

試料セル　PET製

●AQ-201型で結合残留塩素を求める場合

AQ-201型で遊離残留塩素を測定した後に、別売のヨウ化カリウムを付属のさじで1杯（0.1 ～ 0.5g）加え、キャップをして混和し約2分間放置します。
呈した色をAQ-201型で測定し、総残留塩素濃度を求めます。
この値から初めに測定した遊離残留塩素濃度を引いた値が結合残留塩素濃度となります。
結合残留塩素濃度（mg/L）＝総残留塩素濃度（mg/L）－遊離残留塩素濃度（mg/L）
※一般的には遊離残留塩素を測定する方が多いようです。



●このカタログに記載の価格および仕様、外観は2015年8月現在のものです。●製品改良のため、仕様および外観が予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。●カタログの色と実際の製品の色とは、多少異なる場合があります。●本カタログに記載の価格には消費税は含まれておりません。●ご使用の前に、必ず取扱説明書をお読みください。

SIBATA 製品のご用命は

SIBATA SCIENTIFIC TECHNOLOGY LTD.
柴田科学株式会社
本　社　〒340-0005 埼玉県草加市中根 1-1-62
東京営業所 ☎03-3822-2111　福岡営業所 ☎092-433-1207
大阪営業所 ☎06-6356-8131　仙台営業所 ☎022-207-3750
名古屋営業所 ☎052-263-9310
http://www.sibata.co.jp/
カスタマーサポートセンター（製品の技術的サポート専用）
フリーダイヤル 0120-228-766　FAX：048-933-1590

この印刷には責任ある森林管理の「FSC® 認証紙」を使用し、環境に配慮した「水なし印刷」と「ベジタブルインキ」と「グリーン電力」を採用しています。
No.150803N060